

2. ベトナムにおける臨床薬剤師を介して行う服薬支援ツールを用いた医薬品適正使用の推進プロジェクト

日本製薬工業協会

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

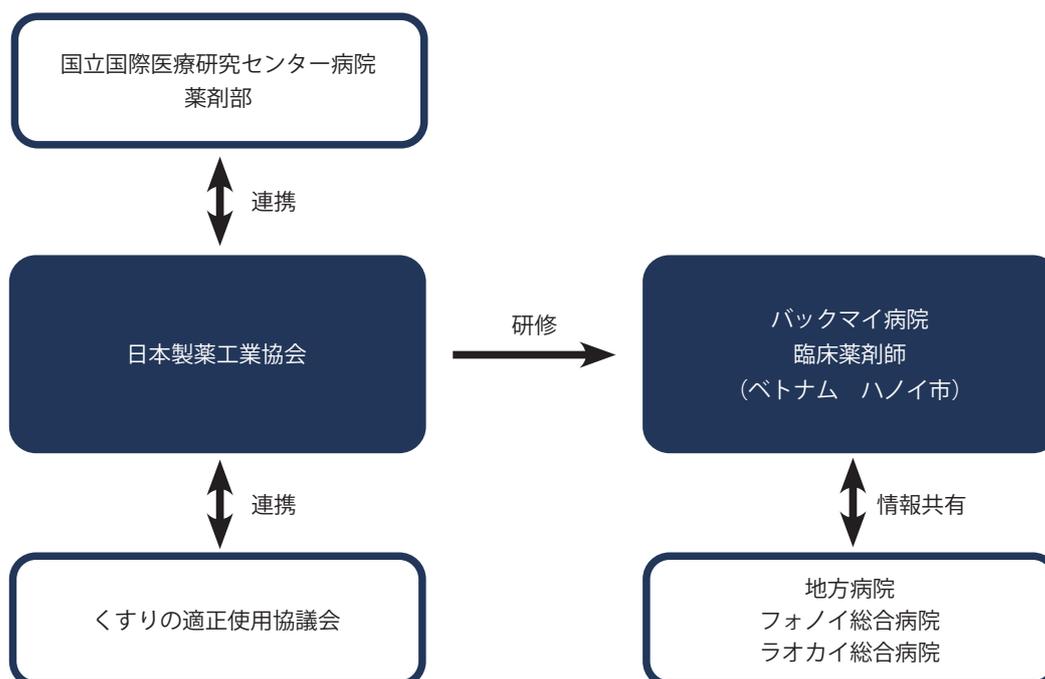
- ・ ベトナムの病院薬剤師業務は、その多くが日常の薬剤払い出しや医師への医薬品情報の提供に留まっている。一方で近年、患者に対する直接的な服薬指導の必要性が認識されてきている。
- ・ 日本ではチーム医療の一員として、薬剤師が患者と密にコミュニケーションをとりながら服薬指導を実施しており、薬剤や疾患に対する患者向けの説明資材も豊富にある。本事業では製薬協と国立国際医療研究センター病院（以下：NCGM）薬剤部が連携し、ベトナムの患者のための服薬支援ツール作成を支援する。
- ・ 患者向け服薬支援ツールを用いた、臨床薬剤師による継続的な医薬品の情報提供を行っていくことで、新型コロナウイルス流行下においても医薬品の適正使用を推進し、現地の医療水準向上に貢献する。

【事業の目的】

ベトナムの病院薬剤師業務においても、患者に対する直接的な服薬指導の必要性が認識されてきており、製薬協が有する「服薬支援ツールの情報」とNCGM 薬剤部が有する「患者目線に立った服薬指導のノウハウ・経験」を同地の臨床薬剤師に伝達することで、医薬品が適正に使用される医療環境の改善を支援する。2019年度からの上記支援に加え、本年度は、新型コロナウイルス流行下においても患者に個別の服薬指導が継続可能な方法を確立するためのツール作成を指導することで、現地の医療水準向上に貢献する。

【研修目標】

- ・ バックマイ病院の臨床薬剤師は、ベトナム患者向けの糖尿病治療に関する患者指導用動画や薬剤情報資材などの服薬支援ツールを作成する。今年度より参加したラオカイ病院およびフォノイ病院の臨床薬剤師は、薬剤情報資材の服薬支援ツールを作成する。
- ・ 日本の臨床薬剤師業務や糖尿病治療、薬剤情報資材に関する研修を服薬指導の参考になるようにオンラインで実施する。
- ・ バックマイ病院においては、作成した患者指導用の動画や資材を用いて服薬指導を実施するとともに患者に対してその評価を行う。



日本製薬工業協会の国際委員会グローバルヘルス部会アクセスグループが実施したベトナムにおける臨床薬剤師を介して行う服薬支援ツールを用いた医薬品適正使用推進事業についてご報告します。

本事業の背景は、ベトナムの病院における処方箋薬について、患者さんへの情報提供が著しく不足しており、また患者さんへの服薬指導も医療従事者のリソース不足から不十分となっている現状があります。

この課題改善のために、製薬企業やその関連団体が作成している日本の患者さん向けの説明資料をベトナムの患者さん向けにカスタマイズを行い、さらに、薬の専門家である臨床薬剤師が、患者に対する服薬指導を担うことで多忙な医師や看護師の負担を軽減させ、ベトナムでの医薬品の適正使用に資する医療環境の向上を目指すこととしました。なお、2019年度（1年目）は薬剤師のリソース等を勘案し、第一ステップとして糖尿病の入院患者向けの集団指導の導入を行いました。

2年目となる2020年度は、1年目にバックマイ病院で作成した服薬支援ツールを活用し、地方病院のニーズに沿った資料の見直しを検討しながら臨床薬剤師による患者集団指導を広く展開して行く方針で検討していましたが、新型コロナウイルスの蔓延により計画の変更を余儀なくされました。感染リスクの高い集団指導ができなくなった状況で、それに代わる有効なツールとして患者個別の服薬指導が可能な患者指導用の動画と個別薬剤の情報を提供する資料を作成することが本年度の主な目的となりました。

実施体制としては、国立国際医療研究センター（以下：NCGM）薬剤部の先生方、くすりの適正使用協議会（以下：RAD-AR）、バックマイ病院と連携しながら、1年目に作成した資料をもとに糖尿病治療に関する患者指導用動画を作成することとしました。また、本年度から新たにプロジェクトに参画したフォノイ病院およびラオカイ病院は、バックマイ病院と協力しながら糖尿病の薬剤情報資料の雛形（記載ルールを含めたテンプレート）および処方の多い薬剤毎の情報資料を作成することとしました。今年度は当初予定していました訪日研修・訪越研修の代わりに、すべてオンラインで研修を実施し、資料作成にあたってはフォローアップ会議を3回実施することにより服薬支援ツール作成の支援をきめ細かく実施してきました。また、服薬支援ツールに対する評価は患者アンケートを通して行いましたが、調査票の質問もベトナム側で主体的に作成していただき、評価も実施して貰いました。

2020年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
研修タイトル(期間)	①打ち合わせ	・オンライン研修 ・研修フォローアップ会議 (1日)	・オンライン研修 ・研修フォローアップ会議 (1日)	・オンライン研修 ・研修フォローアップ会議 (1日)	・研修フォローアップ会議 (1日)	・研修フォローアップ会議 (1日)	・オンライン研修 ・研修フォローアップ会議 (1日)	
研修内容等(逸聞システムを用いた研修含む)	・20年度研修内容	・キックオフ ・19年度成果の振り返り ・20年度研修内容確認	・糖尿病治療(経口剤、注射剤) ・有害事象への対応 ・ベトナムのしおり ・薬剤情報資料の作成 ・患者指導について ・服薬支援ツール作成にあつたでのフォローアップ会議	・糖尿病治療(経口剤、注射剤) ・有害事象への対応 ・ベトナムのしおり ・薬剤情報資料の作成 ・患者指導について ・服薬支援ツール作成にあつたでのフォローアップ会議	・服薬支援ツール作成にあつたでのフォローアップ会議	・服薬支援ツール作成にあつたでのフォローアップ会議	・プロジェクト振り返り ・研修生からの学びや患者指導状況の発表・共有 ・作成した服薬支援ツールに関するフィードバック ・患者アンケート結果の分析・共有 ・2年度の活動の振り返りなど	
日本人専門家参加人数(A)	10	15	16	14	15	15		
海外研修生参加人数(B)	2	4	4	4	3	3		

COVID19の影響のため日本人専門家現地派遣、本邦研修、現地研修は実施せず、オンラインを用いた研修等を実施

1年間の活動スケジュールです。本年度の本研修は10月に2日間に分けてオンラインで実施しました。2年目の今年は新たに2病院が参画しましたので、9月に改めてオリエンテーションを実施し、活動の目的や内容について十分理解いただいたうえで研修に臨んでいただきました。10月の研修以降は、服薬支援ツールを作成にあつたでのフォローアップ研修を3回実施し、事業の進捗を確認していきました。また、1月に最終研修ではプロジェクトの振り返りとともに研修生によるLessons learnedを共有し、研修生の本事業での達成感と継続的な取り組みへの意志を確認できました。



こちらは実際の服薬指導とオンライン研修の様子です。

今年度の成果指標とその結果(アウトプット指標)

	アウトプット指標
実施前の計画(具体的な数値を記載)	<ul style="list-style-type: none"> ①新規服薬支援ツールの作成数 6種類以上(患者指導用動画1種類以上、薬剤情報資料5種類以上) ②新規臨床薬剤師への研修を実施、およびその研修参加人数 4名(1医療機関あたり1名以上) ③新規服薬支援ツールを作成した新規臨床薬剤師の人数 4名(1医療機関あたり1名以上) ④新規臨床薬剤師への研修回数 10回以上(10月オンライン研修/JPMA2回、NCGM薬剤部4回、RAD-AR1回、フォローアップ研修/JPMA2回、現地実地指導研修/JPMAおよびNCGM薬剤部1回、その他必要に応じて追加実施)
実施後の結果(具体的な数値を記載)	<ul style="list-style-type: none"> ①糖尿病患者向け新規服薬支援ツールとして、患者指導用動画6種類(DM general video 1種類およびdrug specific video 5種類)、および薬剤情報資料9種類の計15種類を作成 ②3医療機関の新規臨床薬剤師4名に対して研修を開始したが、2名参加のラオカイ病院のうち1名が個人的な事情で研修途中から休職となり、当該1名を除く3名が研修を完遂した。 ③3医療機関の新規臨床薬剤師4名で新規服薬支援ツールの作成に取り掛かり、1名研修途中から休職のため、最終的には研修完遂生である3医療機関の新規臨床薬剤師3名が新規服薬支援ツールを完成させた。バックマイ病院は患者指導用動画6種類および薬剤情報資料3種類を、ラオカイ病院とフォノイ病院は薬剤情報資料を各々3種類作成した。 ④新規臨床薬剤師に対して12回の研修を実施した(10月オンライン研修/JPMA2回、NCGM薬剤部4回、RAD-AR1回、フォローアップ研修/JPMAおよびNCGM薬剤部3回、JPMA1回、最終研修/JPMAおよびNCGM薬剤部1回)。なお、COVID-19の影響により研修はすべてオンラインにて実施した。

今年度の成果指標とその結果です。

アウトプット指標については、糖尿病患者向けの新規服薬支援ツールとして、患者指導用動画を6種類(糖尿病全般に関する動画1種類と糖尿病治療薬5種類の薬剤情報の動画)および紙ベースの薬剤情報資料の

べ9種類:各病院3種類ずつで、同じ一般名のももあり)の15種類を作成することができました。なお、薬剤情報資料の作成に当たっては、事前に記載項目を明確にするためのテンプレートを作成しました。

今年度の成果指標とその結果（アウトカム指標）

	アウトカム指標
実施前の計画（具体的な数値を記載）	①バックマイ病院において以下の評価を行う。 1)薬剤情報資料に対する患者評価：有用であると回答した患者割合70%以上 ②患者指導用動画の視聴患者数：10名以上 ③患者指導用動画を用いた服薬指導に対する患者の理解度：薬剤の効果や副作用等への理解度を3段階で評価し、視聴後の理解度向上割合70%以上（有効回答者数として10名以上）
実施後の結果（具体的な数値を記載）	①薬剤情報資料に対するアンケートを行った 11名全員が「とても有用である」と回答した。 （アンケートの集計結果による） ② 患者指導用動画を視聴した患者は17名であった。 （アンケートの集計結果による） ③薬剤の効果や副作用等の理解度に関する全ての項目において「 動画を見る前に比べてより理解できた 」と回答した 患者割合は70%以上であった。 （アンケートの集計結果による）

7

アウトカム指標として、バックマイ病院において実施したアンケートより、薬剤情報資料については、アンケートを実施した対象患者全員から「とても有用である」と回答していただき、患者指導用動画について

は、患者さんの理解度の変化を確認し「動画を見る前に比べてより理解できた」と回答された患者割合が70%以上の結果を得られました。

今年度の成果指標とその結果（インパクト指標）

	インパクト指標
実施前の計画（具体的な数値を記載）	①薬剤師による服薬指導が、糖尿病以外の疾患や入院患者のみならず外来患者まで幅広く実施される。 ②薬剤師による服薬指導の意義、服薬指導ツール、患者とのコミュニケーションスキルがバックマイ病院を中心としてベトナム北部の他病院に普及することで、ベトナム広域においても患者視点にたった服薬指導が開始される。 （以下は2020年度には確認が困難ではあるが長期的に期待するインパクト） ③日本製薬企業への信頼が高まり、日本製品の導入数が増加する。 ④薬剤師による服薬指導の促進により、患者の服薬アドヒアランスの向上および副作用に対する理解が高まることで、介入対象疾患における治療成績の向上および治療脱落者の減少、副作用の早期発見症例の増加が期待される。
実施後の結果（具体的な数値を記載）	①中核病院であるバックマイ病院のみならず地方病院においても服薬支援ツールおよびそれを用いた臨床薬剤師による服薬指導の有用性が認識され、 いずれの医療機関においても今後も継続して服薬指導を実施する意向を確認した。地方病院では作成した薬剤情報資料を用いて外来患者に対しても服薬指導を行いとても有用であったとの報告を受けた。さらには糖尿病以外の疾患薬剤に関する服薬支援ツールの作成意欲が報告された。 ②服薬支援ツールの作成にあたり中核病院であるバックマイ病院の臨床薬剤師から地方病院の臨床薬剤師へ2019年度の本事業を通じて培った 服薬指導の知識や経験の共有がなされた。 地方病院の臨床薬剤師から、研修の受講やバックマイ病院の指導を通じて糖尿病に関する 知識や薬の一般情報の理解促進により自信を持って患者に服薬指導ができるようになったこと、その結果、薬剤師の服薬指導能力も向上できると考えられること、また、患者にとって分かりやすい服薬支援ツールの作成方法が理解できたとの報告があり、バックマイ病院を中心とした服薬指導の普及と共に地方病院においても患者視点にたった服薬指導が開始された。

8

インパクト指標として、動画や薬剤情報資料などの服薬支援ツールが服薬指導に高い有効性を示すことが確認されたので、実際に指導を行っ

た臨床薬剤師にとって、服薬指導の重要性に対する意識向上にもつながっていると確信しています。

今年度の相手国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 事業で紹介・導入し、国家計画/ガイドラインに採択された医療技術の数
- 国家計画/ガイドラインに採択されたものはないが、バックマイ病院の臨床薬剤師が作成した糖尿病の入院患者向け服薬支援ツール（患者指導用動画および薬剤情報資料の2種類）は、バックマイ病院のホームページにて掲載された。今後、ベトナムの複数病院において服薬支援ツールが活用されることによって患者視点になった効果的な服薬指導につながっていくことを期待する。また、適切な服薬指導の実現はベトナムにおける医薬品の適正使用の一助となる。（掲載内容は次のスライドをご参照ください）

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者
- オンラインを用いた講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数（3人）
- 期待される事業の裨益人口
- バックマイ病院・フオノイ総合病院・ラオカイ総合病院において糖尿病治療目的で診療を受けた患者（本事業で作成した服薬支援ツールを用いた服薬指導の実施）
- 一般公開した服薬支援ツールを閲覧した糖尿病患者（服薬情報取得）

事業インパクトにつきましては、本年度作成した糖尿病全般についての動画と治療薬の薬剤情報資料がバックマイ病院のホームページに紹介されました。掲載内容は次のスライドをご覧ください。これらの服薬支援ツールを用いた服薬指導により患者さんの服薬アドヒアランスが向上するとともに副作用の早期発見ができ、有効性や安全性が高まることが期待されます。また、適切な服薬指導が行われることにより、ベトナムにおける医薬品の適正使用の一助となると考えられます。

また、健康向上における事業インパクトとしては、糖尿病患者への服薬指導などにより患者の糖尿病に対する理解が進み、低血糖時の対応などのリスクを減らすことが期待されています。

バックマイ病院のHPIに掲載された服薬支援ツール



(リンク) [To.Thong tin.huong dan.sudung cac thuoc.dieu tri dai thao duong](http://to.thongtin.huongdan.sudungcacthuoc.dieu-tri-dai-thao-duong)

バックマイ病院のホームページで紹介している本事業で作成した服薬支援ツールの薬剤情報資料です。

これまでの成果

- (2019年度)
作成した服薬支援ツール（「薬についての一般知識」および「糖尿病治療における基礎知識」）に対する入院患者による服薬指導の満足度や患者集団指導後の理解度に関して高い評価が得られ、糖尿病患者への集団服薬指導が実施された。
- (2020年度)
コロナ禍において患者集団指導に代わる有効な服薬支援ツールとして患者個別指導用の動画および薬剤別情報資料を作成した。動画の評価として患者から高い理解度向上（全ての項目において「動画を見る前に比べてより理解できた」と回答した患者が70%以上）が示され、薬剤別情報資料では高い有用性の結果（「とても有用である」と回答した患者が100%）が得られ、服薬指導方法の選択肢を広げることができた。

今後の課題

- 2年間を通じた課題として、特に以下の点を考慮しながら、服薬支援ツールの他病院でも活用できる体制づくり・環境整備が重要であると考えます。
- ① 研修対象病院での継続した活動
 - ② 薬剤別の服薬支援ツール数の拡充および活用方法のマニュアル作成
 - ③ 薬剤情報の更新

2019年度より2年にわたって、患者への服薬指導を支援するツールとして、糖尿病の入院患者向けの集団指導およびコロナ禍でも対応可能となる個別指導のための資料を作成するとともに、作成した資料の有用性を確認するために患者さんからのアンケート評価も実施してきました。2020年度は新たにベトナム北部の2病院が本事業に参画したもののすべての研修をオンラインで実施したためフォローアップの打合せを含めコミュニケーションにはかなりの時間を要しましたが、薬剤情報資料のテンプレート作成時には3病院の臨床薬剤師の間で意見交換が積極的に行われ、施設間の密接な連携も図られました。また、そのような

中で新たな2病院では作成した資料について当該施設の医師などから高評価を得ており、本格的に導入するための環境に近づくことができたことと認識しています。

今後の課題としては、本事業で土台が出来つつある臨床薬剤師による服薬指導が継続できるための体制づくりおよび環境整備が重要であると考えています。具体的な対応としては、2年間で作成してきた資料やその活用などをまとめ本事業が終了後もバックマイ病院が中心となりその他の地方病院に展開できるように基盤をつくっていきます。

将来の事業計画

研修参加病院を拡大しながら本事業で作成している服薬支援ツールの更なる拡充を図る。また、2020年度までの研修参加病院以外の病院においても同ツールが臨床薬剤師により活用され服薬指導を効果的かつ効果的に実施できるように服薬指導 他院展開用パッケージを作成する。

上記の取り組みを通じバックマイ病院が中心となりベトナム北部の広範囲にわたり服薬指導の普及活動を実施する。

この取り組みがベトナム保健省をはじめ多くの医療機関で評価され、ベトナムの臨床薬剤師が患者視点に立ち効率的かつ適切な服薬指導を実施し、医薬品の適正使用が推進され、薬剤の有効性や安全性が最大限に引き出されることを期待する。

また、本事業を支援してきた日本製薬企業への信頼が高まり、中長期的に日本製品の導入数が増加することを期待する。

本事業を通じて臨床薬剤師による服薬指導の意義や重要性が理解されたと考えています。一方、今回の事業で作成した情報提供用紙の薬品数は少なく、その拡充が望まれております。今後、バックマイ病院を中心に情報提供用紙の薬品数を拡充しながら、ベトナム北部のその他の病院に対しても服薬支援ツールが活用されるように環境整備することで広く服薬指導が普及されることを期待します。また、これらの活動をベトナム保健省の関係者にもアピールすることにより、ベトナムの広域に臨床薬剤師による服薬指導が展開されていくことも併せて期待しています。患者視点に立った服薬指導の実践は、患者の服薬アドヒアランスの向上や副作用に対する理解が向上し薬剤の有効性や安全性が最大限に引き出されることに繋がると考えております。また、最終的には、日本の製薬企業による取り組みがベトナム医療機関側に評価され、日本の製薬企業への信頼が高まり、日本の医薬品が多く採用されていくことを期待しています。